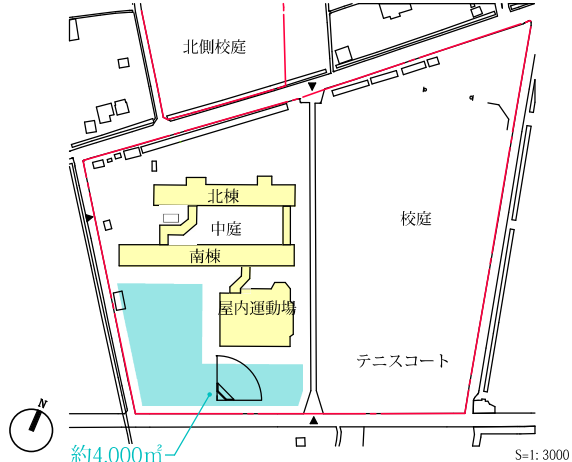
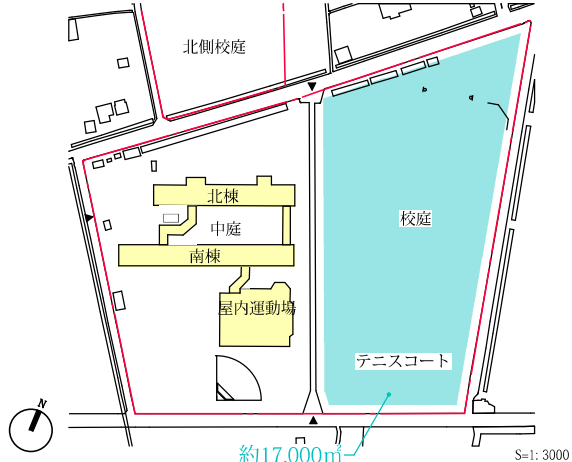
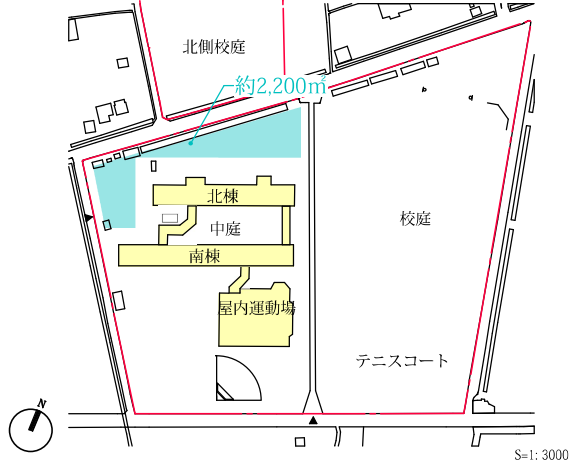


	A 南棟前に配置	B グラウンドに配置	C 北棟北側に配置
建物配置 凡例  既存校舎  建設可能範囲	 約4,000㎡ S=1: 3000	 約17,000㎡ S=1: 3000	 約2,200㎡ S=1: 3000
計画の自由度	・約4,000㎡の範囲にL型に配置可能。 ・建物形状の自由度は低いが、計画規模は十分配置可能。	・約17,000㎡の範囲に自由に配置可能。 ・計画の自由度は最も高い。	・約2,000㎡の範囲があるが、不整形であり、法的制約が大きいため、計画の自由度は低い。 ・当該範囲だけでの計画規模確保は困難。
既存校舎との関係	・既存校舎（屋内運動場とも）との動線距離は短い。 ・既存南棟への採光に配慮が必要。	・建物の配置によって既存校舎との動線距離は大きく変わる。 ・新校舎への既存校舎の影響（日影等）は少ない。	・既存校舎との動線距離は短いですが、屋内運動場との距離は遠い。 ・採光面で既存校舎の影響を受ける。
校庭の使い勝手	・現在と同じ一体で広い校庭 ・体格差に配慮した運動スペースの確保に留意が必要。	・一体の校庭面積は現在より小さくなる。 ・建物の配置によって校庭の使い勝手は大きく変わる。	・現在と同じ一体で広い校庭 ・南棟南側の空地も活用可能。
周辺との関係	・西側の田んぼへの日影に配慮が必要。	・東側の田んぼへの日影に配慮が必要。 ・浸水対策が必要	・北側に日影が増大するが、住宅等はなく影響は少ない。

※北側校庭は道路を挟むため、安全性の観点から校舎の建設候補地に含めていない。（北側校庭は駐車場もしくは中学生の運動スペースを想定）